

汎用性のある作文評価基準の提案を目指した評価項目の検討

－日本語教師を対象とした実態調査を通して－

川上 麻理

〔要 旨〕

本研究では、様々な学習レベルや目的に応用できるような基本となる作文の評価基準の提案を目指すという理由で、日本語教師を対象とした実態調査を行い、その結果に基づいて評価項目の検討を行った。調査の結果、「作文の評価をする際、日本語教師が実際に何を重視しているか」という課題については、「全体として言いたいことが分かるか」と「意味を取ることができないものや他の違う意味に取れてしまう誤り」が各学習レベルに共通した項目として特に重視度が高かった。両者は、項目としては異なるものの、分かりやすさを測るという点で共通していると言える。また、重視する理由についての質問に対して、評価者全員が「伝えたいものを伝えられているか」を重要だと考えるという点で一致しているが、それを判断する根拠としては「内容」と「文法（表現）」の2通りのファクターに分かれる傾向があることが明らかになった。この結果に基づいて、言語能力を総合的な何か一つのもので表せるとし、「全体として言いたいことがよく分かるか」を「内容」「文法」等の小項目を含む総合的な項目として位置づけるという考察を行った。

〔キーワード〕

評価基準 評価項目 言語能力 ファクター

1. はじめに

日本語教育において、作文指導や評価の目的はプログラムの数だけ存在すると言える。実際、作文の評価は難しい。それは、完全なる客観性を追求することが困難であるためと言える。しかし、今後、評価基準を検討していくことによって、より客観的な評価を目指すことは可能であり、かつ必要なことであると思われる。第二言語教育の中でも、英語教育の場合は、ESL Composition Profile⁽¹⁾のような確立された作文評価基準がある。これに対して、日本語教育の場合は、まだこのような確立された評価基準がない。したがって、今後、様々なレベルや目的に応用できるような基本となる評価基準の提案を目指すという理由で、本稿では、実態調査を通して評価項目の検討を行った。

2. 先行研究と研究課題

現在、様々な機関において、異なる目的で作文教育が行われ、それに伴う評価もなされている。そうした中で、これまでに作文の評価基準に関する研究が行われており、評価方法もいくつか提案されている。(森田, 1980; 村崎, 1982; 菊地, 1987; 斉木ほか, 1988; 三嶋, 1992; 斉山, 1994)

菊地(1987)は、初級後期から中級の学習者を対象として、作文を点数で評価する場合の一方

法を紹介している。作文を評価する場合の基本方針として、外国人が日本語の作文を書くための能力を、日本語能力と文章能力に大別して捉え、その基準として①趣旨の明確さ、②内容、③正確さ、④表現意欲・積極性、⑤表現力・表現の豊かさの5つのファクターに区別し、各評価項目について詳しく定義づけを行っている点で非常に参考になる。但し、日本語能力と文章能力に分けた場合、「趣旨の明確さ」のように両方の能力が共に関係するファクターもあると考えられ、「正確さ」と評価内容が重複するのではないかという疑問が出てくる。

田中ほか（1998）は、「汎用性のある作文評価基準の土台を作る」という、本研究と同様の目的で、日本語教師と一般日本人に対して、学習者の書いた作文の評価とその際の評価基準について質問紙調査を行った。そして、22の評価項目を因子分析することによって、作文評価の基本構造とも言える「正確さ」「構成・形式」「内容」「豊かさ」の4因子を抽出した。田中ほかの研究では、対象者が日本語教師と一般日本人であるのに対し、本研究では対象者を専門の日本語教師に絞り、調査の土台とする対象評価項目も増やし、さらにアンケートおよびインタビュー調査を行った。その理由として、作文の評価という性質上、量的データ（数字）には表れないものが質的データ（評価者のコメント）によってより具体的になると考えたからである。

本研究は、川上（2003）で行った調査結果の一部を分析し直し、それに基づいて考察を行ったものである。川上では、学習レベル間の評価項目の比較検討が十分に行われず、中級レベルに焦点を当て、中級レベルのみの作文評価表を提案した。しかし、汎用性のある作文評価基準を提案するためには、学習レベルごとの調査結果の分析が必要となる。

そこで、本研究では、次のような課題に重点を置いて調査結果の分析および考察を行った。

- A 作文の評価をする際、学習レベルごとに日本語教師は実際に何を重視しているか。
- B 外国人の書いた作文を評価する場合、最も重視する項目とその理由は何か。
- C 重視度の高い項目は、評価基準としてどのように位置づけたらよいか。

3. 調 査

3.1. 調査目的と対象

評価項目を検討するために、日本語教師が作文の評価をする際に何を重視しているかについて実態を調査した。調査は、国内または国外の日本語教育機関で働く日本語教師で、作文指導に熱心なあるいは特に評価に関心を持つ9名に依頼した。日本語教育歴は7年から14年で、いずれも作文指導および評価の経験がある。調査時期は2002年12月から2003年4月にかけてである。

3.2. 調査資料と手順

調査にあたり、作文を評価するうえで考えられ得る項目をすべて調査対象者に提示するという意図で、すでに提案されている6例の評価基準⁽²⁾を参考に、評価項目表⁽³⁾を作成した。評価項目表は、学習レベルごとに異なる調査結果が得られることを予想し、レベル別（初級、中級、上級）に分けて3種類用意した。そして、調査対象者に以下の手順で調査を依頼した。

- ① 評価項目表の各項目について、評価の際にどの程度重視しているかを、4段階で評定する。
- ② アンケート調査用紙（記述式）に記入する。⁽⁴⁾
- ③ 必要に応じて、面談またはE-mailによるインタビュー調査を行う。

3.3. 調査結果分析方法

評価項目表の評定結果から、項目ごとに平均値および標準偏差を割り出すという分析方法を用い、各評価者の評価項目に対する重視度を探った。さらに、特に重視度の高い項目について、アンケートおよびインタビュー調査の結果に基づき、評価基準としての位置づけについて考察した。

4. 結果と考察

4.1. 評価項目表評定結果

評価項目表4段階評定の結果を表1から表3に示した。

まず、初級レベルの評価項目表評定結果（表1）を見ていく。

- 1) 内容①「全体として言いたいことがよく分かるか」(3.78)、語彙②「意味を取ることができないものや他の違う意味に取れる誤り」(3.78)、文法⑥「テンスの誤り」(3.78)、文法⑩「主述の不对応」(3.78)の平均値が高い。このことは、これらの項目に対する評価者の重視度が高いことを意味している。
- 2) 構成⑧「長く書いているか」は、平均値が1.78と極端に低い。このことは、評価者の重視度が低いことを意味している。その理由として、評価者Eはアンケート調査の中で、「文章の長さは必ずしも内容の良さに比例するものではなく、構成⑦『決められた字数が満たされているか』の項目だけで十分なのではないか」と回答しており、構成⑧について評価項目として適切ではないことを示唆している。
- 3) 標準偏差の高い項目として、内容③「題と内容が一致しているか」(1)、内容④「独自の見方や考え方で述べられているか」(1.17)、内容⑤「要所を押さえた述べ方をしているか」(1)、構成⑦「決められた字数が満たされているか」(1.09)、文字・表記③「仮名遣いの誤り」(1)、文字・表記④「送り仮名の誤り」(1.01)、文字・表記⑦「脱字」(1.05)、文字・表記⑧「外来語表記の不適切」(1.01)、書式①「題の位置」(1)が挙げられる。このうち、内容③を除いては、各評価者の評定が分散していることで標準偏差が高くなっている。

次に、中級レベルの評価項目表評定結果（表2）を見ていく。

- 1) 内容①「全体として言いたいことがよく分かるか」は、評価者全員が「4」の評定で一致しており、非常に重視度が高いことを意味している。
- 2) 語彙②「意味を取ることができないものや他の違う意味に取れる誤り」は、評価者Aを除く全員が「4」の評定をしており、平均値が3.89と高い。1)と同様に、重視度が高いことを意味している。他に、平均値が高い項目として、構成②「全体としてまとまりがあるか」(3.78)、文法⑩「主述の不对応」(3.78)が挙げられる。

- 3) 構成⑧「長く書いているか」は、平均値が 1.67 で、重視度の低い項目である。これは、初級レベルと同様、構成⑦と評価内容が重複すると考えられるからだと言える。
- 4) 中級レベルについては、標準偏差が「1」以上である項目は見られなかった。

さらに、上級レベルの評価項目表評定結果（表 3）を見ていく。

- 1) 中級レベルと同様に、内容①「全体として言いたいことがよく分かるか」は、全員が「4」の評定で一致しており、重視度が高いことを意味している。
- 2) 中級レベルと比較して、さらに平均値が上がったものとして、内容③「題と内容が一致しているか」(3.89) 内容⑦「述べている事柄に魅力があるか」(3.78)、構成②「全体としてまとまりがあるか」(3.89)、構成③「文章が論理的に構成されているか」(3.78)、構成⑨「文と文が意味的に続いているか」(3.78)、構成⑩「文体が統一されているか」(3.89)、語彙②「意味を取ることができないものや他の違う意味に取れる誤り」(4)、文字・表記⑩「母語の使いすぎ」(3.78)、文法④「語形変化の誤り」(3.78)、文法⑥「テンスの誤り」(3.89)、文法⑦「アスペクトの誤り」(3.78)、文法⑧「接続語句の使い方が不適当な文」(3.89)、文法⑩「文脈の不整合」(3.89)、文法⑪「主述の不对応」(4)、表現③「書き言葉と話し言葉の使い分けができていないか」(3.78) が挙げられる。
- 3) 構成⑧「長く書いているか」は、平均値が 1.78 と低く、初級・中級レベルと同様に重視度の低い項目だと言える。
- 4) 内容⑤「要所を押さえた述べ方をしているか」(1)、構成⑤「文の重複はないか」(1)、文字・表記②「かなの字形の不適切」(1.12)、文字・表記③「仮名遣いの誤り」(1.05)、文字・表記④「送り仮名の誤り」(1.01)、表現①「積極的に文型・語句を使う意欲が感じられるか」(1) の 6 項目については、標準偏差が「1」以上であり、評価者によって評定結果が分散している。但し、評価者 C については、この 6 項目すべてに対して「1」の評定を出していることから、学習レベルの設定において、他の評価者とは異なる設定をしていたことを示唆しているとも考えられる。

以上のように、学習レベルで比較した場合、「書式」以外の全ての分野において、上級では評価者の重視する項目が他のレベルに対して増えていることが明らかであり、評価が厳しくなることが伺える。

表1

評価項目表評定結果(初級)

	評価項目	評価者A	評価者B	評価者C	評価者D	評価者E	評価者F	評価者G	評価者H	評価者I	平均	標準偏差
内容	①全体として言いたいことがよく分かるか。	3	4	4	4	4	4	3	4	4	3.78	0.44
	②表現したい内容が十分出ているか。	3	4	3	4	4	2	3	4	4	3.44	0.73
	③題と内容が一致しているか。	1	4	4	4	4	4	4	4	4	3.67	1
	④独自の見方や考え方で述べられているか。	2	4	2	4	2	3	1	4	4	2.89	1.17
	⑤要所を押さえた述べ方をしているか。	2	4	1	3	2	2	1	3	3	2.33	1
	⑥述べ方や述べている事柄が確かであるか。	2	4	3	3	3	2	3	4	3	3	0.71
	・論旨が一貫している。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・きちんと見るべきものを見ている。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	⑦述べている事柄に魅力があるか。	2	4	2	4	3	2	3	2	4	2.89	0.93
	・興味を引かれる内容である。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・内容が充実している。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・ありきたりではなくよい意味での個性が感じられる。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・具体的に生き生きとした事実や描写が盛り込まれている。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・素直に述べられていて好感が持てる。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・内容が高度である。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
構成	①文章の運びに上手さがあるか。	2	2	3	3	2	1	3	2	3	2.33	0.71
	②全体としてまとまりがあるか。	2	4	4	3	4	4	3	4	4	3.56	0.73
	③文章が論理的に構成されているか。	2	4	4	3	4	4	4	4	3	3.56	0.73
	④適当な段落に分かれているか。	2	4	4	3	3	4	4	4	2	3.33	0.87
	⑤文の重複はないか。	3	4	3	3	3	3	3	4	3	3.22	0.44
	⑥冗長な文はないか。	3	4	3	3	3	3	2	2	2	2.78	0.67
	⑦決められた字数が満たされているか。	1	3	4	4	4	3	4	4	2	3.22	1.09
	⑧長く書いているか。	1	2	3	1	2	1	2	3	1	1.78	0.83
	⑨文と文が意味的に続いているか。	3	4	3	4	3	3	3	4	4	3.44	0.53
	⑩一文が長すぎたり短すぎたりしていないか。	2	4	4	2	2	3	2	2	2	2.56	0.88
	⑪文体が統一されているか(敬体と常体が混在していないか)。	2	4	4	4	4	4	4	3	3	3.56	0.73
語彙	①語形が不正確だったり、意味が誤っていたり、類語と混同したりしているが、いずれも意味をくむことができる誤り	1	2	4	4	3	2	3	3	3	2.78	0.97
	②意味を取ることができないものや他の違う意味に取れる誤り	2	4	4	4	4	4	4	4	4	3.78	0.67
文字表記	①漢字の誤り(字形、他の字との混同)	2	4	4	2	4	3	2	3	3	3	0.87
	②かなの字形の不適切	2	3	4	2	4	4	3	2	4	3.11	0.93
	③仮名遣いの誤り	1	4	4	2	4	3	3	3	3	3	1
	④送り仮名の誤り	1	2	4	2	4	2	3	2	2	2.44	1.01
	⑤長音表記等の誤り	2	4	4	2	4	3	3	4	3	3.22	0.83
	⑥乱雑な書き方	4	4	4	2	4	4	3	2	4	3.44	0.88
	⑦脱字	1	3	4	2	4	2	3	4	3	2.89	1.05
	⑧外来語表記の不適切	1	3	4	2	4	2	3	2	2	2.56	1.01
	⑨句読法の不適切	1	3	4	3	2	4	3	3	3	2.89	0.93
	⑩漢字の使用量	1	3	2	3	3	3	2	2	2	2.33	0.71
	⑪母語の使いすぎ	3	4	4	3	4	4	3	4	4	3.67	0.5
文法	①助詞の誤り、脱落、不要	2	4	4	4	4	4	4	4	2	3.56	0.88
	②自動詞、他動詞の誤り	2	4	4	4	4	3	3	3	3	3.33	0.71
	③「こ、そ、あ」の誤り	2	4	3	4	3	2	3	3	4	3.11	0.78
	④語形変化の誤り(動詞、形容詞)	2	4	4	4	4	4	3	4	4	3.67	0.71
	⑤副詞の誤り	2	3	3	4	4	2	4	3	4	3.22	0.83
	⑥テンスの誤り	2	4	4	4	4	4	4	4	4	3.78	0.67
	⑦アスペクトの誤り	2	4	4	4	4	2	4	4	3	3.44	0.88
	⑧接続語句の使い方が不適当な文(接続助詞、接続詞)	2	4	2	4	4	4	4	4	3	3.44	0.88
	⑨並列表現の誤り	2	3	2	4	4	3	4	4	3	3.22	0.83
	⑩文脈の不整合	2	4	4	4	4	4	4	4	3	3.67	0.71
	⑪主述の不对応	2	4	4	4	4	4	4	4	4	3.78	0.67
	⑫語順の誤り	2	3	4	4	4	4	3	4	3	3.44	0.73
	⑬意味があいまいな文	2	4	4	4	3	4	3	4	2	3.33	0.87
表現	①積極的に文型・語句を使う意欲が感じられるか。	1	4	3	2	3	3	4	3	3	2.89	0.93
	②表現に豊かさがあるか。	1	3	1	3	2	3	2	2	3	2.22	0.83
	③書き言葉と話し言葉の使い分けができていくか。	2	2	4	3	4	2	3	3	2	2.78	0.83
書式	①題の位置	1	3	4	3	4	2	4	3	3	3	1
	②名前の位置	1	3	4	3	4	4	4	3	3	3.22	0.97
	③促音、拗音の位置	2	4	4	3	4	3	4	3	2	3.22	0.83
	④その他(句読点、「」天地の逆)	2	4	4	4	4	2	4	4	3	3.44	0.82

表2

評価項目表評定結果(中級)

	評価項目	評価者A	評価者B	評価者C	評価者D	評価者E	評価者F	評価者G	評価者H	評価者I	平均	標準偏差
内容	①全体として言いたいことがよく分かるか。	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	0
	②表現したい内容が十分出ているか。	4	4	3	4	4	3	3	4	4	3.67	0.5
	③題と内容が一致しているか。	3	4	2	4	4	4	4	4	4	3.67	0.71
	④独自の見方や考え方で述べられているか。	4	4	2	4	3	3	3	4	4	3.44	0.73
	⑤要所を押さえた述べ方をしているか。	3	4	1	3	3	2	3	3	3	2.78	0.83
	⑥述べ方や述べている事柄が確かであるか。	4	4	3	3	3	2	4	4	3	3.33	0.71
	・論旨が一貫している。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・きちんと見るべきものを見ている。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	⑦述べている事柄に魅力があるか。	4	4	2	4	3	2	4	4	4	3.44	0.88
	・興味を引かれる内容である。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・内容が充実している。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・ありきたりではなくよい意味での個性が感じられる。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・具体的で生き生きとした事実や描写が盛り込まれている。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・素直に述べられていて好感が持てる。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・内容が高度である。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
構成	①文章の運びに上手さがあるか。	3	3	2	3	2	2	3	3	3	2.67	0.5
	②全体としてまとまりがあるか。	3	4	4	3	4	4	4	4	4	3.78	0.44
	③文章が論理的に構成されているか。	3	4	4	3	4	4	4	4	3	3.67	0.5
	④適当な段落に分かれているか。	3	4	4	3	3	4	4	4	2	3.44	0.73
	⑤文の重複はないか。	3	4	1	3	3	3	4	4	3	3.11	0.93
	⑥冗長な文はないか。	3	4	2	3	3	3	2	3	2	2.78	0.67
	⑦決められた字数が満たされているか。	2	3	3	4	4	3	4	4	2	3.22	0.83
	⑧長く書いているか。	2	2	1	1	2	1	2	3	1	1.67	0.71
	⑨文と文が意味的に続いているか。	3	4	3	4	3	3	3	4	4	3.44	0.53
	⑩一文が長すぎたり短すぎたりしていないか。	3	4	3	2	2	3	2	4	2	2.78	0.83
	⑪文体が統一されているか(敬体と常体が混在していないか)。	3	4	2	4	4	4	4	4	3	3.56	0.73
語彙	①語形が不正確だったり、意味が誤っていたり、類語と混同したりしているが、いずれも意味をくむことができる誤り	2	2	4	4	3	2	3	3	3	2.89	0.78
	②意味を取ることができないものや他の違う意味に取れる誤り	3	4	4	4	4	4	4	4	4	3.89	0.33
文字 表記	①漢字の誤り(字形、他の字との混同)	2	4	3	2	4	3	3	3	3	3	0.71
	②かなの字形の不適切	2	3	3	2	4	4	3	2	4	3	0.87
	③仮名遣いの誤り	2	4	2	2	4	3	3	3	3	2.89	0.78
	④送り仮名の誤り	2	2	2	2	4	2	3	3	2	2.44	0.73
	⑤長音表記等の誤り	2	4	2	2	4	3	3	4	3	3	0.87
	⑥乱雑な書き方	4	4	3	2	4	4	3	2	4	3.33	0.87
	⑦脱字	2	3	2	2	4	2	3	4	3	2.78	0.83
	⑧外来語表記の不適切	2	3	2	2	4	2	2	2	3	2.44	0.73
	⑨句読法の不適切	2	3	3	3	2	4	3	3	3	2.89	0.6
	⑩漢字の使用量	2	3	2	3	3	3	3	3	2	2.67	0.5
	⑪母語の使いすぎ	3	4	4	3	4	4	3	4	4	3.67	0.5
文法	①助詞の誤り、脱落、不要	2	4	4	4	4	4	3	4	3	3.56	0.73
	②自動詞、他動詞の誤り	2	4	3	4	4	3	3	3	3	3.22	0.67
	③「こ、そ、あ」の誤り	2	4	3	4	3	2	3	3	4	3.11	0.78
	④語形変化の誤り(動詞、形容詞)	2	4	3	4	4	4	3	4	4	3.56	0.73
	⑤副詞の誤り	2	3	3	4	4	2	4	3	4	3.22	0.83
	⑥テンスの誤り	2	4	3	4	4	4	4	4	4	3.67	0.71
	⑦アスペクトの誤り	2	4	3	4	4	3	4	4	4	3.56	0.73
	⑧接続語句の使い方が不適当な文(接続助詞、接続詞)	2	4	2	4	4	4	4	4	3	3.44	0.88
	⑨並列表現の誤り	2	3	2	4	4	3	4	4	3	3.22	0.83
	⑩文脈の不整合	2	4	3	4	4	4	3	4	4	3.56	0.73
	⑪主述の不对応	2	4	4	4	4	4	4	4	4	3.78	0.67
	⑫語順の誤り	2	3	2	4	4	4	3	4	3	3.22	0.83
	⑬意味があいまいな文	2	4	4	4	3	4	3	4	2	3.33	0.87
表現	①積極的に文型・語句を使う意欲が感じられるか。	2	4	1	2	3	3	4	3	3	2.78	0.97
	②表現に豊かさがあがるか。	2	3	1	3	3	3	3	3	3	2.67	0.71
	③書き言葉と話し言葉の使い分けができていくか。	3	4	3	3	4	4	3	4	4	3.56	0.53
書式	①題の位置	1	3	3	3	4	2	3	3	3	2.78	0.83
	②名前の位置	1	3	3	3	4	4	3	3	3	3	0.87
	③促音、拗音の位置	2	4	3	3	4	3	2	3	2	2.89	0.78
	④その他(句読点、「」天地の逆)	2	4	3	4	4	2	2	4	3	3.11	0.71

表3

評価項目表評定結果(上級)

	評価項目	評価者A	評価者B	評価者C	評価者D	評価者E	評価者F	評価者G	評価者H	評価者I	平均	標準偏差
内容	①全体として言いたいことがよく分かるか。	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	0
	②表現したい内容が十分出ているか。	4	4	3	4	4	3	3	4	4	3.67	0.5
	③題と内容が一致しているか。	3	4	4	4	4	4	4	4	4	3.89	0.33
	④独自の見方や考え方で述べられているか。	4	4	3	4	3	3	4	4	4	3.67	0.5
	⑤要所を押さえた述べ方をしているか。	3	4	1	3	3	2	4	4	3	3	1
	⑥述べ方や述べている事柄が確かであるか。	4	4	3	3	4	2	4	4	3	3.44	0.73
	・論旨が一貫している。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・きちんと見るべきものを見ている。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	⑦述べている事柄に魅力があるか。	4	4	4	4	4	2	4	4	4	3.78	0.67
	・興味を引かれる内容である。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・内容が充実している。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・ありきたりではなくよい意味での個性が感じられる。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・具体的で生き生きとした事実や描写が盛り込まれている。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・素直に述べられていて好感が持てる。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	・内容が高度である。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
構成	①文章の運びに上手さがあるか。	3	4	3	3	3	2	4	4	3	3.22	0.67
	②全体としてまとまりがあるか。	4	4	4	3	4	4	4	4	4	3.89	0.33
	③文章が論理的に構成されているか。	4	4	4	3	4	4	4	4	3	3.78	0.44
	④適当な段落に分かれているか。	4	4	4	3	3	4	4	4	3	3.67	0.5
	⑤文の重複はないか。	4	4	1	3	3	3	4	4	4	3.33	1
	⑥冗長な文はないか。	4	4	2	3	3	3	4	4	4	3.44	0.73
	⑦決められた字数が満たされているか。	3	3	4	4	4	3	4	4	4	3.67	0.5
	⑧長く書いているか。	2	2	1	1	2	1	2	4	1	1.78	0.97
	⑨文と文が意味的に続いているか。	4	4	4	4	3	3	4	4	4	3.78	0.44
	⑩一文が長すぎたり短すぎたりしていないか。	4	4	3	2	2	3	2	4	2	2.89	0.93
	⑪文体が統一されているか(敬体と常体が混在していないか)。	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3.89	0.33
語彙	①語形が不正確だったり、意味が誤っていたり、類語と混同したりしているが、いずれも意味をくむことができる誤り	3	2	4	4	3	2	3	4	3	3.11	0.78
	②意味を取ることができないものや他の違う意味に取る誤り	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	0
文字 表記	①漢字の誤り(字形、他の字との混同)	4	4	2	2	4	3	3	4	4	3.33	0.87
	②かなの字形の不適切	4	3	1	2	4	4	3	2	4	3	1.12
	③仮名遣いの誤り	4	4	1	2	4	3	3	4	3	3.11	1.05
	④送り仮名の誤り	4	2	1	2	4	2	3	3	2	2.56	1.01
	⑤長音表記等の誤り	4	4	2	2	4	3	3	4	3	3.22	0.83
	⑥乱雑な書き方	4	4	3	2	4	4	3	3	4	3.44	0.73
	⑦脱字	4	4	2	2	4	2	3	4	3	3.11	0.93
	⑧外来語表記の不適切	4	3	2	2	4	2	2	3	4	2.89	0.93
	⑨句読法の不適切	4	3	3	3	3	4	3	4	3	3.33	0.5
	⑩漢字の使用量	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3.22	0.44
	⑪母語の使いすぎ	4	4	4	3	4	4	3	4	4	3.78	0.44
文法	①助詞の誤り、脱落、不要	4	4	4	4	4	4	3	4	4	3.89	0.33
	②自動詞、他動詞の誤り	4	4	3	4	4	3	3	4	3	3.56	0.53
	③「二、そ、あ」の誤り	4	4	4	4	3	2	3	4	4	3.56	0.73
	④語形変化の誤り(動詞、形容詞)	4	4	3	4	4	4	3	4	4	3.78	0.44
	⑤副詞の誤り	4	3	4	4	4	2	4	4	4	3.67	0.71
	⑥テンスの誤り	4	4	3	4	4	4	4	4	4	3.89	0.33
	⑦アスペクトの誤り	4	4	3	4	4	3	4	4	4	3.78	0.44
	⑧接続語句の使い方が不適当な文(接続助詞、接続詞)	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3.89	0.33
	⑨並列表現の誤り	4	4	2	4	4	3	4	4	3	3.56	0.73
	⑩文脈の不整合	4	4	4	4	4	4	3	4	4	3.89	0.33
	⑪主述の不对応	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	0
	⑫語順の誤り	4	4	2	4	4	4	3	4	3	3.56	0.73
	⑬意味があいまいな文	4	4	4	4	3	4	3	4	2	3.56	0.73
表現	①積極的に文型・語句を使う意欲が感じられるか。	3	4	1	2	3	3	4	4	3	3	1
	②表現に豊かさがあるか。	3	4	1	3	3	3	4	4	3	3.11	0.93
	③書き言葉と話し言葉の使い分けができていないか。	4	4	3	3	4	4	4	4	4	3.78	0.44
書式	①題の位置	2	3	3	3	4	2	3	4	3	3	0.71
	②名前の位置	2	3	3	3	4	4	3	4	3	3.22	0.67
	③促音、拗音の位置	3	4	3	3	4	3	2	4	3	3.22	0.67
	④その他(句読点、「」天地の逆)	3	4	3	4	4	2	2	4	4	3.33	0.62

4.2. 評価項目別重視度とその理由

4.1.の評定結果から、評価者全員について、各レベルに共通した項目として、内容①「全体として言いたいことがよく分かるか」と語彙②「意味を取ることができないものや他の違う意味に取れる誤り」の重視度が非常に高いことが分かった。内容①も語彙②も、分かりやすさに注目している点で共通している。確かに、作文を評価するうえで、読み手にきちんと伝わるかどうかということが重要であることに異論はない。しかし、これらの項目は菊地（1987）の主張する日本語能力と文章能力について、両方の能力に関わっていると考えることができる。したがって、文法や語彙に関する項目を別に設けた場合、評価内容が重複するとは考えられないだろうか。

この点について、外国人の書いた作文を評価する場合に最も重視する項目とその理由に関するアンケート調査の結果は以下のとおりである。

《重視する項目とその理由》

評価者A：正確でなくても伝えられることは多いから、文字や文法にはあまり拘らない。

評価者B：伝えたいものがある場合、文章は未熟でも訴えるものがある。伝えたいものを文章化する作文指導を目指している。

評価者C：言語はコミュニケーション手段の一つなので、伝わらなければ意味がないから、日本語教師以外の日本人にも何が書いてあるかが分かることが大切である。

評価者D：内容が正しく理解されることが大事である。

評価者E：内容の豊かさや面白さも大切ではあるが、表現があまりに不正確なものは、意味の通らず、言わんとすることを相手に伝え切れないものになることが多い。

評価者F：基本的な文法・語順が違えば、意味が取れなかったり、意味が曖昧な文になり、筆者の意図が伝わらない。

評価者G：文法が間違いだらけだと、何を言おうとしているか分からないので、内容や構成がいくら良くてもいい点は与えられない。また、日本語が下手だという印象は拭えない。

評価者H：何をどれだけ伝えようとしているか、また伝えられているかが大切な点である。

評価者I：文章の訴える力や内容の面白さが最も大切である。

アンケート調査の結果から、評価者9名が「伝えたいものを伝えられているか」を重視するという点では共通しているものの、それを何で判断するかについては、大きく分けて「内容」と「文法（表現）」に分かれることが明らかになった。つまり、「伝えたいものを伝えられているか」が全体としての項目だとすれば、「内容」や「文法（表現）」はその中に含まれているファクターだと考えられる。そして、意味が伝わっているかを判断するうえで、文法（表現）の誤りがあれば伝わらないと考えるか、内容が秀でていれば伝わるものがあるかと考えるかの2通りに分かれる傾向があるようだ。

これに関して、言語能力の一要因説を唱えた Oller（1979）の主張が参考になる。Oller は、言語行動の基底にある言語能力は一つであるとし、それは「予測力」と主張した。「伝えたいものを伝えられているか」つまり「表現力」とも言えるものと「予測力」は同じファクターではないが、しかし、言語能力を総合的な何か一つのもので表せるという考え方には共通性があると

言える。ここで、「伝えたいものを伝えられているか」は、評価項目表にある「全体として言いたいことがよく分かるか」と同じ部分を評価する項目だと考えることができる。したがって、「全体として言いたいことがよく分かるか」を、評価の際の総合的な項目であるとし、その中に含まれる形で「内容」や「文法」等の項目が存在すると考えられないだろうか。つまり、「全体として言いたいことが分かるかどうか」は、これらの各ファクターがうまくいっているからこそ分かれると
言えるわけである。(5)

5. まとめと今後の課題

日本語教師が作文の評価をする際に重視する項目とその理由についての調査を行い、その結果に基づいて評価項目の検討を行った。

今回の調査の反省点としては、外国人の書いた作文を評価する場合最も重視する項目とその理由に関するアンケート調査を行った際、学習レベルごとに回答を得ていたら、異なる結果が得られた可能性もあるという点である。

今回の調査の結果、学習レベルごとに、重視度の高い項目、重視度の低い項目、評価者によって重視度が異なる項目が明らかになった。各レベルに共通して重視度が高いと言えるのは、内容①「全体として言いたいことがよく分かるか」と語彙②「意味を取ることができないものや他の違う意味に取れる誤り」である。これらの項目は、今後、評価基準を提案するうえで重要な項目だと考えてよいだろう。また、重視度が極端に低い構成⑧「長く書いているか」については、評価基準に積極的に取り入れるには重要性の低い項目だと考えられる。さらに、評価者によって重視度が分散した項目については、評価の目的によって重視度が変わることも考えられることから、今後、評価の目的も考慮に入れた十分な検討が必要だと言える。

付記：本稿は、筆者が杏林大学大学院に提出した修士学位論文の一部を大幅に加筆・修正したものである。

注

- (1) Content, Organizational, Vocabulary, Language use, Mechanics の項目で Writing Skill を測るようになっている。(Jacobs, Hartfiel, Hughey & Wormuth, 1981)
- (2) 菊地 (1987)、斉木ほか (1988)、斉山 (1994)、三嶋 (1992)、村崎 (1982)、森田 (1980) を参考にした。
- (3) 評価項目については、評価項目表評定結果 (表1～表3) を参照されたい。
- (4) 重視する項目について、その理由を主な質問事項とした。
- (5) 但し、現段階では、評価項目表評定結果に挙げた内容や文法等の項目を測定することによって、全体としての「言いたいことが分かるかどうか」を完全に評価したことになるとまでは言い切れないことを付け加えておく。

参考文献

- 川上麻理 (2003) 『日本語教育における作文評価の方法』 杏林大学大学院国際協力研究科修士論文
- 菊地康人 (1987) 「作文の評価方法についての一私案」 『日本語教育 63 号』、日本語教育学会
- 斉木ゆかり・照木ミドリ・川幡愛恵美 (1988) 「作文評価の標準化のために」 『東海大学紀要』 留学生教育センター第 8 号、東海大学 53-69
- 斉山弥生 (1994) 「大学に学ぶ留学生のための作文評価試案」 『産能短期大学紀要』 第 27 号、産能短期大学 67-77
- 田中真理・坪根由香里・初鹿野阿れ (1998) 「第二言語としての日本語における作文評価基準－日本語教師と一般日本人の比較－」 『日本語教育』 96 号、日本語教育学会 1-12
- 三嶋健男 (1992) 「日本語教育の作文評価」 『天理大学別科日本語課程紀要』 4 号、天理大学 41-53
- 村崎恭子 (1982) 「作文の評価」、日本語教育学会編 『日本語教育事典』、大修館書店 609-610
- 森田富美子 (1980) 「作文の評価」 『日本語教育』 43 号、日本語教育学会 17-33
- L. F. バックマン／A. S. パーマー、和田稔訳 (2000) 「実践言語テスト作成法」、大修館書店
- Jacobs, H. L. Hartfiel, V. F., Hughey, J.B. & Wormuth, D. R. 1981. *Testing ESL Composition : A Practical Approach*. Boston.MA : Newbury House
- Oller. J. W. 1979. *Language Tests at School* London : Longman

A study of evaluation items for a proposal of evaluation criteria of many applications
for writing — a fact-finding inquiry on teachers —

Mari KAWAKAMI

In this study, I conducted a survey on evaluation criteria for writing adopted by teachers of Japanese as a foreign language. The aim of the survey is to find out common evaluation criteria which apply to writing Japanese at various levels of language proficiency. There were two items which most teachers found important. Firstly, the reader must understand the general meaning of the entire passage. Secondly, the reader must understand the specific meaning of the words in the passage. The common theme of these two points is, "Can the reader understand what is written?" It is noteworthy that this theme tends to be measured in terms of grammar and content. The survey results suggest that understanding by the reader is the true measure of writing ability.